

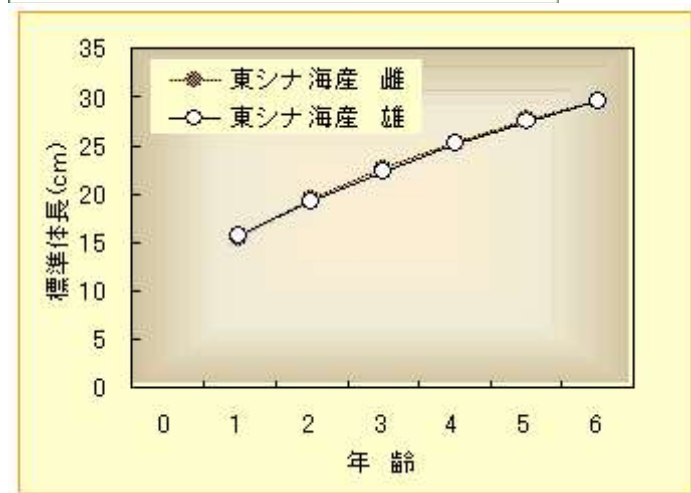
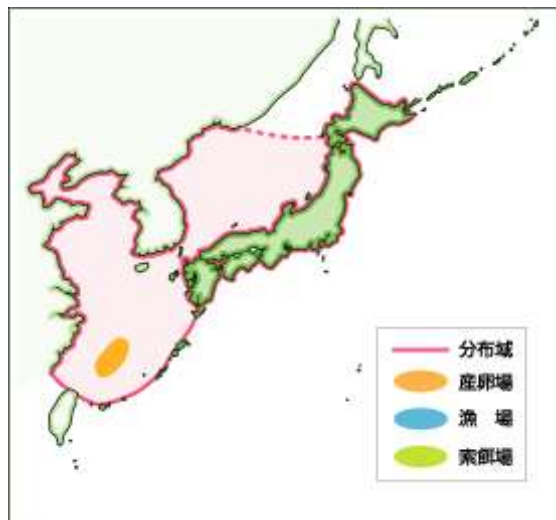
ウマヅラハギ *Thamnaconus modestus*

東シナ海・日本海 担当：西海区水産研究所



生物学特性

- 寿命：10歳
- 成熟開始年齢：1歳
- 産卵期・産卵場：5～7月、魚釣島周辺海域、日本・中国・韓国の沿岸
- 索餌期・索餌場：8月～翌4月、東シナ海・日本海の沖合域、日本・中国・韓国の沿岸
- 食性：コペポダ、ヒドロ虫類、端脚類、オキアミ類、珪藻類、紅藻類
- 捕食者：不明

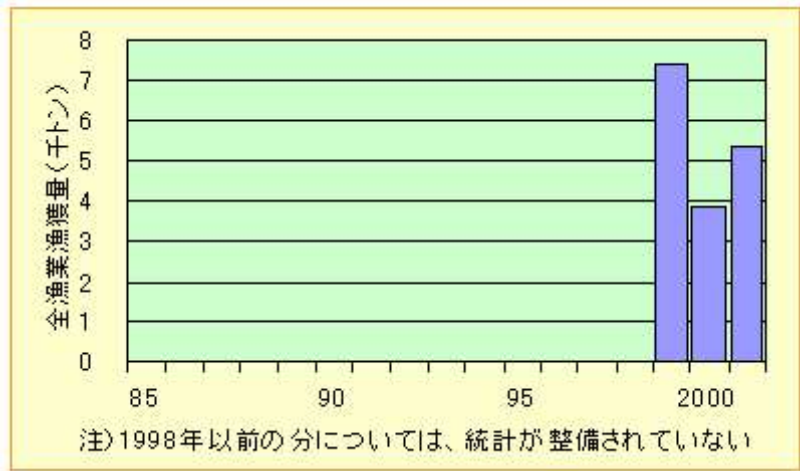


漁業の特徴

主に我が国の沿岸域で定置網やごち網等によって多獲される。盛漁期は冬季。

漁獲の動向

昭和40年代前半から各地に多量に出現するようになった。2001年の我が国の沿岸域(九州西岸から日本海北部沿岸まで)と東シナ海での漁獲量は5千トン程度であると推定される。周辺国では、1980年代には東シナ海において中国、韓国の底びき網漁業等により年間50万トンの漁獲があったがその後急速に落ち込んだ。中国は2000年にウマヅラハギ属魚類として22万トンの水揚げをした。韓国は2001年に1,578トンの水揚げをした。

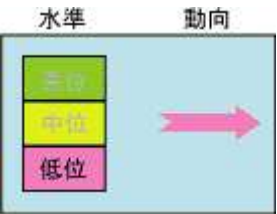


資源評価法

我が国のウマヅラハギの漁獲統計は沖合・沿岸漁業ともほとんど整備されていないため、韓国のウマヅラハギの漁獲量の経年変化から資源水準を、2000-2001年の調査船調査結果及び沖合・沿岸漁業の漁獲量から動向を判断した。

資源状態

1986～2001年までの韓国の漁獲量が非常に減少していることから判断すると資源は低水準であると考えられる。2000～2001年の調査船調査による現存量推定値および沖合・沿岸漁業の漁獲量とも横ばいなので、動向は横ばいであると考えられる。



管理方策

近年の我が国のウマヅラハギ漁獲量の大部分は秋季-冬季に日本海沿岸の定置網等により漁獲されている。この時期に漁獲される魚群の多くは沖合からの来遊群と考えられる。また、これらの漁法はウマヅラハギを積極的に漁獲しないため漁獲圧は高くないと想定される。来遊群が安定して添加されると考えられ、漁獲圧の著しい上昇も無いと考えられるが、資源回復のために春季-夏季の漁獲量をやや削減($\beta_2=0.95$)し産卵群を保護するとの観点からABCを算定した。

	管理基準	A B C (トン)	漁獲割合	F 値
A B C limit	0.95 Cave3-yr	5,230	-	-
A B C target	0.8 ABCLimit	4,180	-	-

資源評価のまとめ

- 我が国では1960年代に大発生したがその後漁獲量は減少し続けている
- 韓国では1980年代に漁獲量が多いが現在は激減している
- 調査船調査による現存量推定値は近年横ばい

管理方策のまとめ

- 我が国沿岸域で産卵する親魚を確保し資源の回復を図る